

令和 8 年度 県立友部特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆明るく楽しさみなぎる学校 ◆力いっぱい活動できる学校 ◆家庭や地域に開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○全職員で授業づくりに取り組んだ結果、授業改善や自立活動に関する理解につながった。</p> <p>△授業づくりを単元全体や年間指導計画の見直しにつなげていくこと。</p> <p>△教科の指導内容について縦断的な視点からの整理を行うこと。</p> <p>○特別活動では、代表委員会・生徒会を中心に子供たちの「やりたい」を実現することができた。児童生徒は達成感を味わうことができた。</p> <p>○学校、寄宿舎、家庭、関係機関等の連携を密に取りながら支援を進めた。</p> <p>△連携体制構築事業「ともとくインクル」がスタートしたことを受け、地域の小中学校と連携しながらセンター的機能の強化を進めていく。</p> <p>△福祉事業説明会の充実</p> <p>○コミュニティ・スクールは、「地域の強みを学校の強みに」というテーマのもと、校外資源の活用や教育活動の充実に向けて協議を行った。保護者へのタイムリーな情報発信が課題</p> <p>○常に意見交換のできる風通しの良い職場環境を目指し、チームで課題解決に取り組む体制を構築している。</p> <p>△働き方改革については、ICTの活用を積極的に進めていく。分かりやすいデータ保管の方法や教材の共有化を行うことで効率的な働き方を目指す。</p>	1 一人一人が学ぶ楽しさを実感できる授業づくりの推進	<p>① 各教科等における育てたい力を明確にし、「できた」、「わかった」、「もっとやってみたい」と感じる単元づくり、授業づくりの推進</p> <p>② 各教科等において育まれる資質・能力を支える自立活動の指導目標や指導内容の適切な評価及び改善</p> <p>③ ICTの効果的な活用と教師間の情報共有、職員研修の実施</p>	
	2 一人一人の障害の状態に応じた自立と社会参加を目指す教育の推進と地域に開かれた学校づくり	<p>④ 卒業後の視点を踏まえた小学部・中学部・高等部の系統性のあるキャリア教育の推進</p> <p>⑤ コミュニティ・スクールの活用による創意工夫を生かした教育活動の充実（学びの充実、豊かな心の育成、地域への愛着、地域の担い手としての自覚を育成）</p> <p>⑥ 全校あいさつ運動の実践（あいさつマイスターの認定）</p> <p>⑦ 教員の専門性向上に向けた各種研修の実施と多様なニーズに対応するための地域との連携構築の取り組みによるセンター的機能の充実（ともとくインクル）</p>	
	3 自分の体や健康への関心を高め一人一人の体力の向上と豊かな心の育成	<p>⑧ 自分自身の良さや可能性を知るとともに、相手の考えを尊重し、人を思いやることのできる豊かな心の育成</p> <p>⑨ 専門家や保護者と連携した安全・安心な給食と食育、健康教育の推進</p> <p>⑩ 児童生徒が主体的に取り組む防災安全教育の計画的な実施</p> <p>⑪ けがや病気をしない丈夫な体づくり、体力づくりと衛生面の意識向上</p>	
	4 教育環境の整備と信頼関係の醸成	<p>⑫ 児童生徒が安心して学習や生活ができる教育環境（施設設備等）の整備</p> <p>⑬ 児童生徒及び教職員の事故防止に向けたヒヤリハット事例の共有、各種マニュアルの見直し・改善による危機管理体制の充実</p> <p>⑭ 服務規律の確保とコンプライアンス意識のさらなる向上を目指したボトムアップ型研修の計画的な実施</p> <p>⑮ 学校教育活動の公開やHP等を利用した情報発信</p>	
	5 働き方改革	<p>⑯ 時間の使い方についての意識改革と勤務時間の適正管理</p> <p>⑰ 校内業務の見直し、削減、効率化（ICT活用を含む）を図ることによる、児童生徒への授業づくりの充実</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	○安全・安心で主体的に学ぶ環境の中での、各教科等における育てたい力を明確にした単元づくり・授業づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が学校グランドデザインを共有・理解し、その具現化に向けて一人一人の能力を発揮することができるようにする。 ・各教科等において育まれる資質・能力を支える自立活動の指導目標や指導内容の評価及び改善の充実を図る。 ・研修研究係と企画係が対話により協働することで、校内研究が円滑に進むようにする。 ・分掌部長と連携し、危機管理マニュアルの点検・見直しを行う。 	1-① 1-② 4-⑫ 4-⑬		
教職員の 育成及び 指導・監督	○多様なニーズに対応するための教員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家派遣等を活用した、授業づくり・授業改善の研修を実施する。 ・支援部が主体となり、児童生徒の実態把握や状況把握を行い、児童生徒理解、関係者による情報共有、個のニーズに応じた適切な支援等を行うことができる体制を整える。 ・児童生徒の体力づくりや体づくり、豊かな心づくりについての取り組みの充実及び防災安全教育を計画的に実施する。 	2-⑦ 3-⑧ 3-⑨ 3-⑩ 3-⑪		
対外活動	○地域連携による教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けて、一貫したキャリア教育を推進する。 ・コミュニティ・スクールの活用により教育活動の充実を図る（地域資源の活用、授業づくりの充実等）。 ・CS チャレンジチーフを中心に、企画会、児童生徒会、CS 運営協議会との連携協力を図り、プロジェクト（陶芸美術館作品展、あかりまつり、高等部生活講座の実施）を遂行する。 	2-④ 2-⑤ 2-⑥ 2-⑦		
コンプライ アンス確保	○心理的安全性があり、風通しのよい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス意識の向上を目指した、ボトムアップ研修を計画的に実施する。 ・研修方法及びテーマ設定の工夫により、職員が自分事として意識できる研修を実施する。 ・よりよい学校づくりの当事者意識を高めることができるよう、教員同士の対話の機会を創出する。 	4-⑫ 4-⑬ 4-⑭ 4-⑮		
働き方 改革	○時間の使い方についての意識改革と適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会や企画会主体で、業務の削減に向けた提案を行う（会議の精選、ICT活用、環境整備）。 ・働きやすさと働きがいを両立させた職場環境づくりにより、職員の心理的安全性を確保し、学校全体の教育力の質の向上を図る。 ・勤怠管理の目的の明確化と自己管理の必要性を伝達する。 ・勤務間インターバルを意識した働き方を推進する。 	5-⑯ 5-⑰		
I C T活用	○主体的に学ぶための ICT活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒一人一人の実態を把握し、効果的活用事例を校内で共有する。 ・企画係・研修研究部・学習指導部の連携を進めていく。 	1-③		